

令和3年度 第14回 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール 作文の部『審査結果の講評』

今年度は、作文の部で小学校から85編、中学校から36編、合計121編の応募があった。昨年度に比べ20編少ない応募数であった。世界規模で起こっているコロナ禍で従来の生活様式を改める等、大きく揺れ動く中で、教育現場でも例外ではなく、授業や学校行事等に大きな支障をきたしている。そのような困難が多々あった中で、応募してくれた子ども達をはじめご指導いただいた関係各位に心より感謝したい。

厳正に審査した結果、小学生は、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞5名、入選10名が受賞した。また中学生は、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞5名、入選10名が受賞した。

この「児童・生徒の平和に関する図画・作文コンクール」は、第一に「歴史の実相を次の世代へ正しく継承し、平和を尊ぶ心を育てること」、第二に「作文を書くという創作活動により、平和メッセージを発信する」という2つの趣旨で実施されている。

戦後76年の歳月が経った今、戦争体験者が高齢になり、「語り部」の方々の減少にともない歴史の実相を伝承することが厳しい状況にある。だからこそ、本コンクールが、「平和行政推進事業」の一環として企画される意義は極めて大きく、作文の内容にもその趣旨が生かされ、児童・生徒の平和を希求する思いが伝わる作品が多かった。さらに、これからの社会を生きていく上でとても大切な「表現力」の育成に資する貴重な機会となったことも高く評価したい。

作文審査については、表記の正しさ、文章の流れ、要旨の明確さの三点を審査基準に学年の発達段階等も考慮しつつ、慎重かつ丁寧に審査し、下記のとおり講評する。

1. 小学生の部

- (1) 多くの作文は、平和学習の中で図書館やインターネットを使った調べ学習、地域戦跡での体験学習等を通して学んだことや感じたこと、考えたことを、素直に自分の言葉で表現していた。
- (2) 琉歌やアイヌ文化等、新たな視点から平和について考えた作文があった。
- (3) 本コンクールは、読谷村が「平和行政推進」の一環として永く取り組んできた事業である。コロナ禍の中、出展作品が多数あった。学校の取り組みに感謝いたします。

2. 中学校の部

- (1) 昨年より出品数は増えているが、趣旨を踏まえ更なる取り組みを期待する。
(読谷中 27作品、古堅中 6作品)
- (2) 「命どう宝」「平和な世の中にするために」「当たり前感謝」「今を大切に」「私の描く平和」「沖縄戦を語り継ぐ」等、平和学習で学んだことを自分の日々の生活の中で生じている事と関連付け、いろいろな視点から、平和について深く考えていた。表現力が高く、文章力

令和3年度 第14回 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール 作文の部 『審査結果の講評』

もあり自分自身の意見がしっかり述べられていて、小学校の平和教育が中学校へ継続されている。

- (3) 小学校と同様、誤字・脱字・原稿用紙の正しい使い方等に課題がみられる作品が見られる。今一度、学校現場への協力依頼が必要と考える。

※特に、原稿用紙の正しい使い方、小中学校とも漢数字(一・二・三)で書くべきところを算用数字(1・2・3)で、年代や人数等を表記する間違いが多く見られたところは、気になるところである。